

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	世田谷区桜丘3-10-18
園名	世田谷区立南桜丘保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

作ってみよう！どうなるかな？遊びの広がりや発見 ～空間の探求～

<テーマの設定理由>

作ることが好きな子が多く楽しんでいる。
子どもが自分でやりたいという思いや主体性を大切に保育している。
その2つを伸ばしながら、遊びを広げていけるようにしていきたいことからこのテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

11・12月 積み木やマットなど玩具を整える。
1～3月 繰り返し遊び、子どもの様子を写真で記録していく。
だいすきランド（幼児クラス、砂場積み木遊びの日）でも揃えた玩具を使用し遊びを広げる。
子どもの姿に合わせて、玩具を追加し、しまい方などの変更をする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

室内には積み木、ランプ、衝立など、園庭にはマットや牛乳ケースなどを用意し、子どもたちが自分で出し入れしやすい環境を作った。
また、子どものやってみたいが広がるよう、積み木中心としたシンプルな環境の部屋を用意した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

室内では積み木の数や種類を増やして色々なものを作ったり、園庭ではマットやビールケースを使って戸外でも創造遊びを楽しんだりする中で、物の位置関係を感じたり空間認識力を高めたりしていった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

●室内 ～様々な積み木を使って～

- * (子) ひたすら高く積み上げていく。

→隣の子と合体させよう。→大きくなった。嬉しい。

→高さより横に広がる作品作りを楽しむ。【3.4歳児】



- * (子) 「ここに入口を作りたい」

→ (保) 「どうやって作ろうか？」

→どんどん積み木を外していく。

→バランスのとれた入口が完成【3歳児】

- * (子) 「どっちが高いか競争しよう」

→これ以上高く積みなくなる。

→同じ高さにしよう。

→同じ高さになって微笑みあった後は、

片方の積み木をもう片方に積み、2棟の高さの変化を楽しむ。【5歳児】

- * (保) 「こんな素敵な物(ライト)があるんだ」

→ (子) (保) 点灯したライトを中心に積み木を積む。

→ (保) カーテンを閉めて電気を消す。

→ (子) しばし見とれる。【3歳児】



- * (子) 「中に入りたい」

→ (保) 「どんな大きさがいいかな？」

→ (子) 入りながら作ってみる。

「○人入れるようにする！」

→しかし、人が増えてしまい、満足いくものは作れず。【4歳児】

●園庭

～バスマットや三折りマット、ビールケースを組み合わせて家や乗り物などを作る～

* (子) 牛乳ケースで救急車を作る。

→屋根もつけたい。(うまく屋根が乗らず、色々試す)

→牛乳ケースにバスマットを乗せ、

「ここは雨が降っても大丈夫な場所なんだよ」

すべての空間に屋根がつけられないと判断し、

患者さんが濡れない場所をイメージしている。【4歳児】

* (子) 二つ折りマットで家を作る。

→強風の日で、家がすぐに倒れてしまう。

→友だち同士で抑えあい、何とか保とうとする。

→何度も倒れ、「ダメだぁ」と笑い合っており返し作る。【3歳児】



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

●積み木遊び

最初は数や種類が揃っていなかったので、積み木を手にとってあまり遊びが広がらないことがあったところから、数や種類が増えていくごとに作るものがより大きなものや複雑なものになっていった。その他児の姿を見るに連れて、これまでやっていなかった子や年下の子も真似をしてやってみていた。積み木だけでなくライトも導入したことで、積み木と積み木の隙間から出る光の様子やきれいさなども感じている様子であった。

また、より高く積むには？ どうやったら入口のように穴をあけることができるか？ と自分の思い通りの形にするために考えたり、試したりする姿も増えた。

●園庭遊び

ビールケースやマットを組み合わせ、家や乗り物など子どものイメージがより具体的に膨らんで遊ぶようになってきている。その中で、大きさの違うものを組み合わせたり、バランスを取ることが難しかったりする時に、どう作り上げていくとイメージが形になるかを工夫する姿があり、子ども達の発見から遊びが広がっていた。

園庭では「自分が入って遊ぶ」も大きな目的のひとつであり、立つ、座る、出入りする、寝転ぶ等、

玩具の数や種類が整うことで、子どもたちの遊びがさらに広がっていった。

また、色々なものを作って遊んでいく中で、ぶつかって壊れないように気を付けたり、イメージを形にするために色々なスペースの使い方をやってみるなど、子どもたちの工夫や気付きを感じた。思い通りにならない経験も活きていると感じた。

環境を整えることで、ほぼ子どもだけで探究活動（遊び）は進み、保育士の援助でさらに遊びが深まっていく。

また、「もう1回」「こんどこそ」「どうしてかな？」